



オリオン七夕まつりでの街の賑わい

ルズ活性化委員会」は、平成18（2006）年に、それまでの「宇都宮中心商店街T・O・B・U活性化委員会」から拡大する形でスタートしました。東武宇都宮駅周辺の4商店街と東武宇都宮百貨店が加入しています。商店街組織に百貨店が加入して、事務局まで務めているケースは、全国でも非常に珍しいのではないのでしょうか。イベントは、直接の商売に結びつくもの

よりも、地域全体を盛り上げることを念頭に実施しています。当初からの事業では「みやの盆踊り（22P参照）」があります。苦勞して立ち上げた事業ですので、いちばん思い入れが深いですね。その他にも「みやヒルズピアガーデン」など、さまざまな事業を行っています。私どもも、発足するまでは商店主同士の交流はほとんどなく、お互いの商店街のこともよく知りませんでした。力を合わせて事業を行う中で、気持ちがあひとつになったのを実感しています。それには、会合の後の親睦の飲み会が効果があったと思います。

「商店街の価値を高めることが重要」

（齋藤公則理事長）



長谷川 確かに、空き店舗は少なくなりましたね。
沢根 宇都宮の中心部でも、皆さんご存じのように空き店舗が大きな問題になったこともありましたが、けれども現在は「空いてもすぐに埋まる」という状況です。

〈出席者〉
NPO法人
宇都宮中心商店街活性化委員会
理事長 齋藤 公則さん
（齋藤商事株式会社 専務取締役）
副理事長 長谷川 正さん
（有限会社長谷川時計店 代表取締役）
宇都宮中心商店街
みやヒルズ活性化委員会
会長 竹川 哲夫さん
（株式会社タケカワ 専務取締役）
前会長 沢根 伸一さん
（株式会社みずき保険 代表取締役）
司会 手塚 忠之 事務局長

特集 宇都宮市中心商店街を考える

大きく変わった中心商店街の〈いま〉と〈これから〉

歴史と伝統、文化を大切に、多様性のある商店街づくりを!

宇都宮市中心部の商店街は、空き店舗数の減少や通行量の増加など、にぎわいを取り戻しつつあります。その一方で、中心部の中核商業施設だった宇都宮パルコの撤退による影響も、今後懸念されます。そこで、中心商店街の活性化に取り組む2団体の代表4人をお招きして、座談会を開催し、現状や課題、夢などをうかがいました。

委員会の誕生で、商店や商店街同士の交流も増えた

——最初に、それぞれの委員会の成り立ちや経緯を教えてください。

齋藤 私ども「宇都宮中心商店街活性化委員会」は、二荒山神社周辺にある10商店街と大型店で構成している団体です。名前の通り中心商店街を活性化させることを目的としており、平成14（2002）年に8商店街で発足しました（平成22年にNPO法人化）。

発足のきっかけは、西武宇都宮百貨店30周年記念事業のプロジェクトチームの立ち上げでした。百貨店と商店街が協力して、街を盛り上げるイベントを実施したのですが、その後、残念ながら西武は撤退したのですが、私どもは「せっかくだから組織化して事業を続けよう」と話し合い、正式にスタートしました。

現在は毎月第1土曜日の清掃活動や、秋に開催している「よー元気まつり」、パンバ市民広場（パンバひろば）の管理運営など、さまざまな事業を手がけています。パンバひろばの管理は、宇都宮市から委託された指定管理者として行っているもので、近年は利用される方がかなり増えています。発足するまで、各商店街の交流はあまりありませんでした。委員会ができたことで、商店街同士や個店同士の交流が密になりました。このことも、委員会の大きな効果だったと思います。

竹川 私ども「宇都宮中心商店街みやヒルズ活性化委員会」は、平成18（2006）年に、それまでの「宇都宮中心商店街T・O・B・U活性化委員会」から拡大する形でスタートしました。東武宇都宮駅周辺の4商店街と東武宇都宮百貨店が加入しています。商店街組織に百貨店が加入して、事務局まで務めているケースは、全国でも非常に珍しいのではないのでしょうか。イベントは、直接の商売に結びつくものよりも、地域全体を盛り上げることを念頭に実施しています。当初からの事業では「みやの盆踊り（22P参照）」があります。苦勞して立ち上げた事業ですので、いちばん思い入れが深いですね。その他にも「みやヒルズピアガーデン」など、さまざまな事業を行っています。私どもも、発足するまでは商店主同士の交流はほとんどなく、お互いの商店街のこともよく知りませんでした。力を合わせて事業を行う中で、気持ちがあひとつになったのを実感しています。それには、会合の後の親睦の飲み会が効果があったと思います。



「時代の変化に合わせて、商店街の活性化を」

（長谷川正副理事長）

齋藤 その多くは飲食店ですね。物販店はずいぶん少なくなっています。竹川 今まで物販店だった店が、高齢化などで店じまいし、テナントになっています。その後に入る店舗の多くは、飲食店です。

長谷川 以前は物販店が多く、夕方になるとシャッターを下ろします。人通りが少なくなってしまう。あの頃に比べれば、飲食店が増えたことには驚きを感じます。商店街を構成する店舗が変われば、商店街の事業のあり方も変わってきます。イベントを企画する時には、商店街を構成する商店の業種構成をしっかり把握し、商店街の特徴を生かせる内容にすることが重要です。私の属するオリオン通り曲師町商業協同組合では、飲食店が増えたことで、事業のコンセプトも大きく変える必要があ



写真上/大通りは戦前から中心部のメインストリート
写真下/大通りと東武宇都宮百貨店をつなぐ馬車道通り



「宇都宮は楽しい街、という声も聞かれるようになった」

(竹川哲夫会長)

ると話し合っています。現状に対応したまちづくり、まちおこしが不可欠です。現在、ホビーや高級飲食などを中核とするアイデアなどを検討しているところなんです。

竹川 私どもオリオン通り商店街振興組合でも、一時期ずいぶん空き店舗が増えて心配しましたが、近年は経済も持ち直した、テナントの空きも路面店で2、3カ所程度です。

外から見れば、オリオン通りに店を出すのは、まだまだ魅力的なんじゃないかと思えます。ただ、今まではテナント料などコストが高く出店できなかったのですが、それが最近ではリーズナブルになってきたことも、空き店舗が少なくなった理由だと思えます。

商店は経営規模が小さいので、高齢化・後継者問題は重要

——「全国実態調査」でもうひとつ浮かび上がっているのが「高齢化と後継者問題」です。商店街の抱える問題についてのアンケート調査をみると、約65%の商店街が「経営者の高齢化による後継者問題」をあげています。

イベントの効果の多様さが、宇都宮の魅力に

——まちおこし、活性化のためのイベントは中心部でも数多く行われています。

沢根 現在の経済情勢では、それぞれの商店街が単独でイベントを実施するのは難しい。それだけに、活性化委員会がさまざまなイベントを仕掛けていくことが重要だと考えています。

ただ、最近思うのが「イベントはスポット型」ということ。その時その時で集客はできますが、来てくださったお客さまが継続して来ていただけるようにする努力が必要だと思えます。

もちろん、イベントの効果は大きいと思



街のにぎわいを創出するイベントスペース「オリオンスクエア」。
写真は昨年のミヤジャズイン2018

いますから、今後も続けていきます。実施したイベントをステップに何をやっていくかがこれからの課題ではないでしょうか。

竹川 中心部のマンションに住んでおられるお客さまが「宇都宮では、毎週のようにイベントをやっている。こんなに楽しい街は他にはありません」とおっしゃっていました。中心部に居住している人は、イベントなどで一度宇都宮の良さを体感していただければ、その後も継続して商店街を利用してください。これが今後のヒントになるのではないかと、という気がします。

齋藤 中心部にはオリオンスクエアやパンパひろばなど、イベントの可能なスポットがあります。オリオン通りやユニオン通りなど、商店街自体を会場とすることもあります。それが「宇都宮はイベントの多い楽しい街」



写真上/「よー元気まつり」は、現在はパンパひろばで秋に開催
写真下/商店街そのものがイベント会場となるユニオン通り「028商店街」(フリーマーケット)

竹川 私どもでも高齢化・後継者不足は大きな課題です。商売がうまく回っていれば後継者が育つのですが、集客が少なければスムーズにはいきません。そのため自分では商売をやめて、テナントとして貸し出すケースが多くなりました。近年の飲食店の増加は、テナント化が進んでいることも関連しています。

これは個々の店舗や商店街だけの問題ではなく、宇都宮市のあり方が変わってきていることも一因ではないでしょうか。さまざまな要因が複雑に絡み合っていると思います。

齋藤 確かに、人の流れの変化は大きいと思います。昭和40年代、50年代の宇都宮は、大通りにもオリオン通りにも人がたくさんいて、平日でも多くの人が街に来ていました。百貨店の数も多く、商店街の個々の店も元気で、街全体に集客する力がありました。

という感想につながっているのでしょうか。

イベントには、将来店を出したいと考えている人が、イベントに参加出店することで実際のノウハウを学べる、インキューション効果もあります。このことも、将来の商店街の姿を考える際には重要ではないでしょうか。

竹川 オリオンスクエアの存在は大きいですね。当初は稼働率も低かったようですが、近年はほぼ埋まっています。私どもが使いたくても空いていないことがあります。

——オリオンスクエアは今年12月から来年9月にかけて、屋根の改修のために利用できなくなりそうです。その間は大変ですが、改修後はある程度の雨天であれば心配せずに利用できる施設になる予定です。

齋藤 宇都宮市ではクリテリウムや3x3バスケットボールなど、世界から注目されるイベントも開催されます。これも、しっかりとイベント会場になるスポットがあるからこそでしょう。

長谷川 インバウンド効果も期待したいところです。
齋藤 外国人観光客も増えていますよね。街中の外国語の案内表示にも、力を入れることを考えなくては。商店街だけでなく、例えば宇都宮城址公園や一荒山



「イベントの集客をいかに持続させるかを、考えたい」

(沢根伸一前会長)

神社などの観光スポットにも、英語・中国語・韓国語など多言語表記が不可欠になるでしょう。

——インバウンドの観点から、キャッシュレス化への対応はいかがでしょうか。

沢根 現在はさまざまなキャッシュレス決済があり、注目されています。対応は個々の店舗になりますが、高齢化による対応の遅れなどが心配です。
齋藤 今後は不可欠だと思います。やってみれば、そう難しいことはありません。

——商工会議所でもキャッシュレス決済導入の相談を受け付けています。ぜひご相談ください。



写真上／昨年5月に行われたLRT起工式
写真下／上野百貨店のあるまちなみ(2006年)。写真は宇都宮市商店街連盟提供

「お客さまの中にも「飲食店は
かり増えてますね」とおっしゃ
られる方がいらしゃいます。私
もそういう愚痴をこぼしたこと
があります。そうしたら「いや

——本日はありがとうございます。商
工会議所も、皆さまと力をあわせて、よ
りよい商店街の実現に力を注いでいきたい
と思います。今後ともよろしく願いた
します。

齋藤 そうなんです。パリのパッサージュのよ
うに、大きな通りからふと入ったところに
魅力的な横丁、商店街があるのは、素敵
でしょう。大通りはLRTを中心に近代的
なまちづくり、オリオン通りやユニオン通
りなどは歴史や伝統、文化を感じさせる
まちづくりと、さまざまな顔を持つ街にな
ることが、重要なのだと考えています。

長谷川 わたしどもの商店街は
飲食、物販、ホビーで成り立っ
ています。飲食店はどんどん増え
ていますが、単年度で入れ替え
もあり、なかなか定着しない面
もあるでしょう。現在は飲食店
が目立ちますが、それも時代と
ともに変わるかもしれません。

沢根 商店街のメンバーから、よく「以前
の賑わいを取り戻したい」という声を聞き
ます。以前というのは、おそらく昭和50
年代でしょう。残念ながらそれは、少子
高齢化が進む現代では、難しいと言わざ
るを得ません。
私は「まず、現在の商店街の姿を正確
に把握しなければいけない」と考えます。
どのような方々が、どんなふう利用され
ているのが分かなければ、今後の舵取
りも難しいと思います。
以前、みやヒルズで勉強会を開き「大
人の楽しめる街」というコンセプトを決め
ました。若者も大切ですが、もう少し上
の年齢層が、私どもの顧客層なのです。
ですからその方々にご満足いただ
ける街にしようという話になりました。
さらに詳しい調査と評価が必要
ですが、そうしなければ良いま
ちづくりはできないと思います。

昔からのお店が後継者にも恵まれ、売り
上げをあげられることが、いちばん良いの
です。それでも、この考え方は私たちにと
つても、大きなヒントだと思っています。

ち役員の使命は、商店街の価値を上げる
ことです。テナントで出てくださった店舗
の経営が軌道に乗り、家賃をきちんといた
だけるようになることが重要だと考えてい
ます」という言葉を聞きました。
片町商店街には、有名な店が何軒も路
面店で営業していました。つまり、家賃が
高くてもそれ以上に収入があれば、出店
希望者は必ず出ますし、それが商店街の
魅力をさらに高めてくれるのです。これは、
もちろん次善の策だと思っています。本当は
昔からのお店が後継者にも恵まれ、売り

**バルコ撤退の
直接のダメージは、
あまり感じられない**
——5月末に、宇都宮バルコが撤退しまし
た。その影響はどう感じておられますか。



これからの宇都宮を考えるための、重要なキーワードがいくつも登場

宮バルコはかなり健闘してくださ
ったのだと思います。
撤退の直接的なダメージは、商店街では
少ないのかなと感じています。賑わいも変
わらないのではないのでしょうか。その一方で、
現状では宇都宮の中心である二荒山神社
周辺が寂しい風景になってしまっていますか

中心部での回遊性が確保でき
ない一方で、郊外店が増えるとい
う状況が、バルコ撤退の大きな
理由だったのではないのでしょうか。
沢根 宇都宮より大きい都市で
も、バルコは撤退しています。で
すから地方都市の中では、宇都
宮バルコはかなり健闘してくださ

**これからの商店街活性化には、
何が必要か**

から、外から来た方は驚かれると思いますの
で、なるべく早く新たな展開があることを
期待しています。

竹川 以前の中心部には東武や西武、上
野など百貨店がいくつもありました。私
は、中心部全体が「宇都宮百貨店」だっ
たのだと考えています。百貨店という核が
いくつもあり、その間を商店街が回廊とな
って連結することで、ひとつの大きな百貨
店の役割を果たしていたと思います。それ
が西武の撤退や上野の閉店などによって、一
つずつ核がなくなっていくのが、平成とい
う時代でした。
その中でバルコの役割は専門店の集積で
あり、オールラウンドプレイヤーではなかつ
たと思います。流行に敏感な人たちを惹
きつける層にアピールする存在でした。だ
から撤退のダメージも限定的だったのではな
いでしょうか。

——これからの宇都宮は、どんな角度か
ら考えればよいのでしょうか。



宇都宮バルコ閉店は多くの人に惜しまれた(5月31日)

竹川 中心部への定住促進を考え、街の
魅力づくりをさらに進める必要があります。
また「街なかはこんなに住みやすい」
というPRも積極的に行い、定住人口を増
やすことが求められます。
LRTは、公共交通の要として中心部の
魅力づくりに欠かせないでしょう。不動産
関連の開発を、事業者と自治体が連携し
て進めることも大切だと思います。また、
タワーマンションなどができたことで中心部